

令和2年2月18日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

それでは、ただ今から市長定例記者会見を開催いたします。先ほどご案内しましたが、本日もライブで配信しております。本日の話題は1件です。市長、よろしくお願いします。

【市長】

それでは、令和2年度の当初予算案について今日は発表をいたします。

すでに事前のレクがあったということではございますけども、ポイントから、私、市長の言葉として説明をしたいと思います。お手元の資料、①、令和2年度の当初予算案の概要をご覧いただきたいと思います。これ、特色の1つでありますけども、過去最大の予算規模となりました。一般会計が3,253億円、対前年度73億円の3%の増であります。特別会計、企業会計、合わせた全会計は約6,423億円、対前年度、約198億円、3.2%の増であります。

ポイントは3つあります。1つ目は、5大構想に重点配分をしたということ。2つ目は、国の地方創生総合戦略、この追い風も活かしながら、地域経済の活性化に向け、人口活力の維持、持続可能なまちの実現に図る取組を予算に反映したということです。3つ目は、コロナウイルスの件が、今とても市民の不安材料だと思いますが、安心・安全な社会の構築を目指し、そのための強化。これは保健医療のみならず、教育や子育ての充実、あるいは、災害対応力の強化ということもありますけども、その取り組みに予算をかけたということ。この3つがポイントであります。

加えて、国が補正と当初、15カ月予算という見せ方で、通常国会、論争が始まっております。私たちも、国としっかりそのところを、経済対策という点も加味しながら連動をして、そして、普通建設予算の事業費を合わせて、471億円ということでアピールをしていきたいと思っております。

それでは、まず5大構想について、それぞれ主な取り組みについて説明をいたしますということですが、21日に、ご存じのとおり、所信表明をします。そこで、そのところは詳しく、私、説明をするつもりですので、広報課の原稿にはこれをずっと書いてありますが、これは割愛をしたいと思いません。記者の皆さんは、ここに書いてあることはすでに承知だろうと思います。

いずれにいたしましても、3次総の各事業を着実に前に進めることによって、地域経済の活性化を図り、世界に輝く静岡の実現を目指して取り組んでいきます。議論に議論を重ねた、そんな私たちのビジョンでありますので、私たちはここに確信を持っております。3つの区が大同団結をして世界に挑んでいく、そのために牽引役となっていきたい、その令和2年度の予算だと。

厳しい財政事情、しかし未来への投資、ぎりぎりの中で均衡させた予算を作ったということをご理解いただきたいと思います。私からは以上です。

【司会】

それでは、ただ今の発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いしたいと思いますが、その際

は、社名、お名前をおっしゃってからお願いをしたいと思います。いかがでしょうか。NHKさん。

【NHK】

NHKです。よろしくお願ひします。5大構想のうち、歴史文化拠点づくりについてなのですが、まず、以前も会見で伺いましたが、駿府城の天守閣・天守台の再建について、市長は市民の意見を聴いて決めるということをおっしゃっていましたが、今回の当初予算案の中では、天守台再建に向けた設計費とか、そういったものは見送られているようでは、これはもう、市長の中では、再建に向けては、是非は決断されたという理解でよろしいかどうか、結論を出されたということでもいいのかどうかをお聞かせいただけますか。

【市長】

結論は出していません。今、記者がおっしゃったとおりでございますので、私どもが、今回の令和2年度に反映をさせた内容は、歴史文化施設と、そしてフィールドミュージアムについての整備を着々と進めるという関連の予算です。

【NHK】

3次総についても言及されましたけれども、3次総の中で、天守台の再建についても掲げられているわけですが、本来であれば、4年間の発掘調査を終えたら、次は天守台再建に向けた設計費がついても良さそうなものだと思うのですが、それを見送られたのは、今はそれをするべきではないというご判断でしょうか。

【市長】

本来ならばそう計画をしていましたけれども、この前も申し上げましたとおり、ご存じのとおり歴史的な大発見がありましたので、そこが1つの要因となって、こういう決断になったということになります。

【NHK】

いったん、ペンディングにするということでしょうか。ペンディングにするという。

【市長】

ペンディングというか、世論の声を受け止めるという期間を設けたということになったというわけがあります。

【NHK】

わかりました。あと、歴史文化施設についてなのですが、前々から、県のほうから、知事のほうからということだと思いますけれども、天守台跡の野外展示化と同様に、発見された遺構そのものを保存して博物館機能を持たせるべきであって、また施設を建てるのは二重投資であるという懸念

が知事のほうからありますけれども、そういった声を受けて、何か計画を今回、予算計上の上で反映させるようなことはあったのでしょうか。

【市長】

二重投資だと私は思っておりません。相乗効果にしていきたいと思っています。歴史文化施設、これは2次総からのレガシーを引き継いで、私が今、前に進めている事業、プラス、あとで私の判断で発掘調査をした結果、フィールドミュージアムの可能性、求心力ということが出てきましたので、それを相乗効果にして、駿府城公園地区全体に人々が集まるような仕掛けをしていきたいということです。

【NHK】

わかりました。もう1つ伺いますが、人々が集まるような仕掛けという点で、これ、雑誌の静岡人の受け売りですけれども、展示品の目玉がレプリカということでもいいのかどうかということと、実際、徳川家康ミュージアムは、もう閉鎖状態じゃないかと、これで本当に人が集まるのかというご懸念が、そういった意見もあるようですけれども、それについては、市長はどうお考えでしょうか。

【市長】

私は集まると思っていますし、ここは、今日は、観光交流文化局の歴史文化課長もいらっしゃっていますか。言いたいことがあると思います。ぜひ、ここで少し予算の発表を割愛していますので、ぜひ思いを、エキスパートとして、専門家として伝えてほしいと思います。これ、静岡人に対する反論にもなるかと思えますけどね。

【歴史文化課長】

歴史文化課長の岩田と申します。目玉がレプリカということについては、静岡人もだいぶ議論をいたしました。歴史文化施設で家康公をテーマに、市民の皆さんに、駿府と家康との関わりというものを伝えていきたいというストーリーで伝えるためには、どうしてもレプリカというよりも、私たちは復元模造と呼んでいるのですが、甲冑師に4年をかけて制作をしていただくというものでございまして、400年前の資料の再現をするというところで制作に臨んでおります。ですので、これ自体が立派な展示物になると確信を持って制作をしているものですので、それによって市民に訴えられるものはあると思っています。本物はないのかということにつきましては、逆に、今川氏に関する資料については、静岡市はまさにフィールドでございまして、たくさんの資料がございまして、それらを出していくということで、家康と今川氏の2つのテーマを全面的に押し出した歴史文化施設にしていきたいと考えております。

【NHK】

もう1つ、その復元模造について、とはいえ、現に徳川家康ミュージアムは閉鎖状態じゃないかとい

う、このご批判については、ミュージアムにも菌朶具足のレプリカというか、展示物があるわけですが、それについては、今回の違いはどのようにお考えなのでしょうか。

【市長】

それとは次元の違うミュージアムを、私たちは今計画しておりますので、ご理解いただきたいと思えます。

【NHK】

どういった点で、徳川家康ミュージアムとは違うという。

【市長】

先ほど課長が申し上げたとおりです。また課長と議論をしてください。

【NHK】

わかりました。ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございました。中日新聞さん、どうぞ。

【中日新聞】

中日新聞です。今回、先ほど予算の3つのポイントをご紹介ありましたが、この予算について、何か一言で、何々予算だといったようなタイトルがもしあれば教えていただきたいのと、あと、過去最大の受け止めの2点をお伺いしたいと思います。

【市長】

2つ質問を言っていただきました。1つ目は、未来への架け橋予算ということが去年の触れ込みでしたので、今年はそれをさらに前面に押し出して、未来への加速予算と名付けたいと思えます。つまり、3期目の当選もさせていただきましたので、前期後期の架け橋から、後期計画を加速させていくぞというような思いをこの予算に込めたという理解をしてください。

そして、2つ目ですが、これも3期目の私の公約のキーワードが、経済の活性化であります。公共投資を呼び水にして民間投資を促して、まちのにぎわいとか、雇用の確保をもたらしていくことの中で、国がせっかく 15 カ月予算で経済対策中心に投資をしようということですので、それと連動して、我々もぎりぎりの財政事情ではありますが、投資額を 400 億円に乗せたということであり

【中日新聞】

今の点に関連して、加速の部分で、例えば、この事業が加速にあたるというところがもしあれば。

【市長】

5大構想ですね。それが牽引力になっていくと思います。全体の3次総の。

【中日新聞】

すいません、もう1点。今、県のほうでも議論が続いているリニアに関しまして、今回、初めて開業後の研究事業が計上をされております。主として、こういったリニア開業後の事業、経済効果等を調べることっていうのはまっとうなことだと思うんですが、一方で、大井川の流量に関する問題で、県と流域市町での交渉が続いている段階で、他市町村の足並みという点で、今回の事業、どういうふうにご説明されるかお伺いしたいと思います。

【市長】

少し企画局次長に、そのあたり、後ほど補足をしてもらいたいと思っておりますけども、80万円余りの予算を計上した事業のことをおっしゃっていると思いますが、これはリニアの問題について、私たち静岡市も当事者として、商工会議所の皆さんの要望もあって、連携をしながら研究会を開く、その運営費用として充てているものであります。プラス補足があればお願いします。局長、自らのほうがいいね。

【企画局長】

今、市長の方からもご説明がありましたが、もともと商工会議所の方は、大変、経済界に与えるインパクトというものを心配しておりまして、確かに今の段階で、はっきりリニアがいつできるっていうのは全くわかりませんが、早い段階から、行政と、やはり経済界との間でそういった議論をすでに着手をしていないと手遅れになるだろうという、非常な危機感を持っておりましたので、それを受けまして、調査研究からスタートをしていきたいという内容の予算になっております。

【市長】

どうもありがとうございました。

【中日新聞】

すいません、他市町村との足並みについては、どういうふうにご説明されますでしょうか。

【市長】

やっぱり環境保全という問題で足並みを揃えていきたいと思います。

【中日新聞】

ありがとうございました。

【司会】

NHKさん、どうぞ。

【NHK】

すいません、たびたび。今の中日さんの質問に関連して。この予算の説明書で、2027年に予定されていると、27年を明記されていますけれども、これ、27年の開業がなされるという前提に立られているということなんでしょうか。

【市長】

私どもが、一昨年、合意をした時には、やっぱり金子社長の2027年にかかる思いというものを、私はとても感じました。なんとしても、2027年、国全体の経済活力という点でも、それをJR東海さんが欲しているということは承って、それが合意にこぎついたわけですね。それから1年半がたちました。ますます厳しい状況になっている。1年半前もかなり厳しかったんですね、2027年の開業というのは、黄色信号と思っているという表現を、あの時、金子社長はおっしゃっておりました。ですから、私どももぎりぎりの交渉の中で同意をしたわけですね。合意をしたわけですね。それから1年半、県との水の問題でこういうことになっているということは、とても私は心配をしております。

【NHK】

この27年をわざわざ、あえて掲げる意味は、どういったことに置かれているんでしょうか。

【市長】

まだ27年ということに、JR東海さんは間に合わせたいとおっしゃっていますので、それに呼応したということでもあります。

【NHK】

わかりました。もう一つ伺いたいののが、この研究事業は、静岡がますます通過県になるという危機感、マイナス面を議論するためなのか、それとも、何かプラス面も想定されているのか。27年の段階でプラス面が出るというシナリオは、私は思いつかないんですけれども、どう。

【市長】

経済界を中心に、プラス面、マイナス面、いろいろ議論があるのはご承知のとおりだろうと思います。私たち行政は、プラス面に光を当てていきたいと思っています『週刊ダイヤモンド』だったかな『東洋経済』だったのかな、ご覧になったでしょうか。このリニアの新幹線の事業で最もプラスにはなる

のは静岡だというような論調なんですね。それはメディアの記事ですので、一断面かもしれませんが、ぜひそれをお渡しいたしますので、またご覧になっていただきたいと思います。

【NHK】

私、記事は拝見していませんが、27年の時点で、少なくともJRは、ひかり、こだまが増えるということは無理だと言っているわけですが、他に何かプラスが、市長の中ではおありなんですか。27年。

【市長】

まず記事をお渡しいたしますので、その議論はまたやっていきたいと思っています。例えば、都市局や建設局が静岡市の基盤整備やっておりますけども、今までJR東海さんの許認可がネックになってなかなか前に進まなかった、地元の要望に応えられなかったことがいくつかあります。その1つが、長崎踏切の拡幅です。これも、一昨年の合意をしたところから、JR東海さんの姿勢を転換してもらって、道はもう拡幅したものですから、それに応じた、そのような踏切の拡幅。本来ならば、他の踏切を除去しないと拡幅が認められないという立場だったんですけども、それを、除去しなくても拡幅に同意をしてくれたということも、1つメリットだろうと思っています。草薙、有度、あの辺りの住民の皆さんにとっては、子どもの通学の、踏切の時の安全確保ができたということで、とてもJR東海さんの、今回の決定に喜んでいただいております。あるいは、静岡駅の南口の再開発、このことについても、北口に比べて南口の再開発が駅前広場の整備が狭隘で遅れているということを言われておりましたので、それについてもこれから検討会をしていこうじゃないかというテーブルに、JR東海さん、ついていただきました。これも1つのメリットだろうというふうに思っています。

【NHK】

わかりました。ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございました。それでは続きまして、幹事社質問に移ります。幹事社さん、よろしく願いいたします。

【SBS】

幹事社のSBSテレビです。新型コロナに関連して3点伺います。

まず、ホテル・旅館など、宿泊施設のキャンセル状況について、もしありましたら教えてください。重ねて、地元、また経済への影響もありましたらお願いいたします。

2点目が、もし宿泊などのキャンセルがありました場合には、テコ入れ策など、どのように対応をするのか、もし現状、既に対応などをしていれば教えてください。最後に、今後の新型コロナウイルスについての懸念などあれば教えてください。よろしくお願いいたします。

【市長】

どうもありがとうございます。いくつかの論点に分けて質問をしていただきましたけども、冒頭申し上げましたとおり、とっても市民の皆さんにとって関心の深いテーマでありますので、一括して説明をいたします。まずもって、静岡市民の皆さんの不安を取り除いていくべく、きちっとした、正確な、迅速な情報発信、そして、行政の内部で、危機管理部を中心として、保健福祉長寿局、経済局、企画局、情報の共有化、局間連携を図っているところであります。2月4日に、関係課と市内の公的病院、静岡医師会、清水医師会をメンバーとした医療関係者連絡会を開催し、この新型コロナウイルスに関する今後の対応方法について情報の共有化を図りました。さらに12日には、帰国者、接触者、相談センターの設置について、市民向けのチラシを作成したところであります。今日、お手元に、このA4縦紙をお配りさせていただきましたが、このような形で、市民への啓発情報提供をしております。この番号にかけていただければ、その市民の皆さんに寄り添った専門的なアドバイスをするというチラシであります。ただ、刻々と情勢は変わってきている中で、昨日、加藤厚生労働大臣も、新しい情報提供を自治体向けにしていこう、このことについて整理をするということで発表がありましたので、それを受けた新しいチラシも、今、鋭意、準備をしているところであります。

そして、これ、客観的な数字でありますけども、市内宿泊施設のキャンセルの状況、残念ながら、中国からの宿泊キャンセルが相次いでおります。1月の末日時点で、1,050人。2月以降は、823人のキャンセルがありました。そして、私がポートセールスで一生懸命誘致をして、清水港に寄港をする計画を立てていただいたのに、それを今回のことで入港をお断りすることになってしまったのは、たいへん断腸の思いであります。しかし、これは仕方ありません。今年の12月まで、27隻の客船の寄港の中止が決定しております。その中でも、ノルウェー・スピリットという有力な船会社がありますけども、初寄港を4月の30日、ゴールデンウィークにお願いをしていたんですね。この船が、全部で17回寄港する予定だったんですけど、全て中止になってしまいました。

地域経済への懸念ということにも対応していかなければなりません。そこで、市内企業への影響が顕在化する可能性が見込まれることを支援できるよう、市の産学交流センターでの、窓口相談を通じた対応に着手しております。

今後も国、県、そして商工会議所と、さまざまな機関と連携をしながら、静岡経済への影響について十分目配りをしていき、それに対して必要に応じた万全の経済対策を講じていきたいと思っております。以上です。

【SBS】

すいません、重ねてなんですけれども、それこそ来月の8日、市内静岡マラソンが開催されると思うんですが、東京マラソン、3月1日は、一般のランナーを受け入れず、規模縮小してということで発表ありましたけれども、静岡マラソンについて、何かもし実施の可否も含めて検討されているようでしたら教えてください。

【市長】

それを今、検討中だという報告を受けております。

【SBS】

市長としては、やはり市民の安全を確保するのが最優先なのか、それとも、規模を縮小してでもやるべきなのか、もし受け止めがありましたらお願いします。

【市長】

やっぱり市民の安心安全が第一ですね。

【司会】

ありがとうございました。それでは、各社さんからご質問をお受けしたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。NHKさん。

【NHK】

すいません、三度。当初予算にも関わりますが、まず大型客船の寄港中止、相次いでいる状況について、清水港客船誘致委員会での何か議論、今後の対応について何かお話があるのかということ、予算計上の上では、この7,000万円は特に影響を受けないという理解でいいか、お聞かせいただけますでしょうか。

【市長】

経済局が客船誘致委員会と議論を重ねてこのような決定をしたというのはやむを得ないと私は受け止めております。経済局は、今日は担当来ていますか。少し詳しい補足の説明をしてもらえればと思いますけれども。いない？いた。

【産業政策課長】

産業政策課長の太田でございます。客船誘致の関係は、海洋文化推進本部の方でやっておりまして、詳しいところについては、私の方からまた質問をお聞きして、お答えさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。

【市長】

はい。

【NHK】

すいません。市長、今、決定したのはやむを得ないとおっしゃっているのは、この負担金の計上のことですか。

【市長】

違う。寄港中止の件です。

【NHK】

寄港中止は、市が決定したというよりは、向こうから通告されたということではないですか。

【市長】

私どもが、今回は、国との連携の中で、やっぱり寄港は望ましくないというメッセージを発したことによる決定ですね。

【NHK】

わかりました。あと、話が関連しつつ飛びますけれども、海洋文化施設なのですけれども、先日の議会で、総勢入館者数が上振れした場合、下振れした場合の負担についてどうするか。最大10億8,000万円の負担が生じるということが統括監から示されましたけれども、これの計算式が答弁の場ではなかったのだからわからなかったんですけど、何万人になった時に10億8,000万円の負担が生じるのか、お聞かせいただけますでしょうか。

【市長】

先日の問題提起を受けて、いろいろなシミュレーションを今、しているところです。私たちが指示をして、してもらっています。政策官、今日は海洋文化推進本部が来ていないんですよね。このことが想定されたんだけど、今日は記者会見にいるべきだというふうには思うんですけども、政策官から少し、そのあたりのところ、今、答弁できる限りで情報提供をしていただければと思います。

【政策官】

そうですね。すいません、自分も今、手元に詳しい資料を持ち合わせていないものですから、その10億8,000万、最大でというところ、今ここでお伝えはできないものですから、また改めて各社さんにその点についてはお知らせするようにいたしますので、ご了承ください。よろしく願いいたします。

【NHK】

わかりました。あと関連して、想定入館者数をもし上振れするような、プラス側のシナリオがあるとなれば、まさに客船誘致で、岸壁すぐ近くに施設が、ミュージアムできるわけですから、その部分は上振れ要因としてあり得るという話でこれまでは来ていたかと思うんですけども、それが今回、こういった事態を受けて、この影響とか、どういうふうに見込んでらっしゃるか、お考えがあればお聞かせください。

【市長】

記者の問題意識はそのあたりにあると思いますけども、もう少し大局的に、やはり中長期的に、この施設がいかにあるべきかという議論を私は大切にしたいと思っております。クルーズ船の受け入れ先になりたいという側面も、もちろんありますけども、それだけではありません。私が本来このことについて、原点は、学術教育施設と観光施設の両立ということですので、その学術教育施設としての深み、質の高さ。これは入れ込み数とは逆に、たいへん大事な、私たちのこの海洋施設、ここに整備をしていく大義ですので、そのあたりを総合的に考えていただければと思っております。

【NHK】

わかりました。もう1つだけ伺わせてください。想定入館者数、やはり非常に重要な数字になってくると思うのですが、市長の中で想定の数式、どれぐらいご認識されているかわからないんですが、周辺人口等々、勘案して、延べ床面積も勘案して、海洋の方で弾かれた数字に、民間の運営だからということで、民間のアイデアによる効果ということで、最後 1.1 倍しているんですね。10%増しの効果が期待できるだろうと。という計算をしておきながら、当の民間の方からは、ある1つの事業者からですが、市の計算をかなり下回る数字が、具体的な数字は、今この場では申し上げませんが、かなり下回る数字が出たということは聞いております。民間に期待しておきながら、民間から市の想定よりも下回る数字が出ていることについて、市長はどう受け止めてらっしゃるのでしょうか。

【市長】

よろしいですか。このPFI事業についての根幹は、事業性と社会性の両立なんです。私たち行政は、社会性とか公共性ということを重視します。しかし、そこへ参入する民間企業は、事業性とか採算性というものを重視します。その両立を図るということが、今、細かく記者がおっしゃった論点なわけですね。そのところを、私は市長として、なんとかして、事業性と社会性を両立した施設にしていく、これがこれからの公共投資のあり方だと思っておりますので、財政事情も厳しい中、ご理解いただきたいと思えます。

【NHK】

わかりました。引き続き市議会の議論を注目しております。

【司会】

ありがとうございました。よろしいでしょうか。それでは、以上で本日の定例記者会見、終了させていただきます。次回は3月になりますが、13日、金曜日、午前11時からとなりますのでよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。